



# 「特別の教科 道徳」の評価 ～「指導と評価の指針」の活用を含めて～

2019. 9

明星大学・  
青山学院大学  
大原 龍一

2018年度（中学校は2019年度）から、「特別の教科 道徳」が完全実施となっています。各学校におかれましても、順調にスタートされているのではないのでしょうか。

そこで、「『特別の教科 道徳』の開始に当たって」に引き続き、道徳科の評価に関するリーフレットを作成いたしました。年度末までにはまだ時間がありますが、毎時の授業の蓄積があってこそその評価です。ぜひ活用していただき、よりよい評価に役立てていただければ幸いです。そして、「指導と評価の一体化」と言われるように、日々の授業の充実にもご尽力いただければと願っています。

## I 「道徳科の評価」で留意したいこと

### (1) とにかく、毎週授業をすること！

授業における児童、生徒の学びの記録（学習状況や成長の様子）を整理しましょう。

### (2) 道徳科（道徳の時間の指導）の評価であって、日常生活の様子を見る「**所見**」とは**区別**しましょう。

### (3) 児童、生徒の「**道徳性**」については**評価しません**（できない）。

★しかし、道徳科の授業では、児童、生徒の「道徳性」を養うことがねらいです。

（道徳性：道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度）

ですから、子ども一人一人が道徳科の授業において道徳性を養うそのプロセス、すなわち「**学習状況や成長の様子**」を記述しましょう。

### (4) 個人内評価、発達障害の児童、生徒への配慮、他の児童、生徒と比較しないこと等に留意しましょう。

## II 道徳性を養うために行う道徳科における学習【学習状況や成長の样子の視点】

### (1) 道徳的諸価値について理解しているか。➡ **ねらいとする道徳的価値**

●価値理解：「内容項目」が人間としてよりよく生きるうえで大切であることを理解する。

●人間理解：大切であっても、なかなか実現できない人間の弱さを理解する。

反対に、できた時のすがすがしさを感じるのも人間の「よさ」である。

●他者理解：道徳的なものの見方、考え方は一つではなく、人それぞれ多様であることを理解する。

### (2) 自己を見つめているか。

●道徳的価値を自分のこととして考えたり、感じたりする。

### (3) 物事を多面的・多角的に考えているか。➡ **道徳的な見方、考え方が多様にできる。**

●多面的：違う側面から見ることで、別の見方、考え方をすることができる。

●多角的：関連する道徳的価値（内容項目）に広がりをもたせて考えたり、思ったりする。  
他の道徳的価値とのつながりなどを理解する。

### (4) 自己の生き方についての考えを深めているか。

●今後の生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができる。

## III 評価の具体

### (1) 道徳的諸価値について理解する

「内容項目」の説明をよく理解する  
（小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」）

#### 価値理解

「内容項目」に示されていることが、人間としてよりよく生きるうえで大切なことであることを理解する。

- 発達段階に即した低・中・高学年における「**内容項目**」の**違い**を理解する。
- また、それが教材のどの部分に示されているか、教材分析をする。  
（中心発問の子どもの反応で上記のことが表現されているか、発言やワークシートから見取る）

■内容項目 B（友情、信頼）を例にとると……（小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」より）

〔第1学年及び第2学年〕友達と**仲よくし、助け合う**こと。

〔第3学年及び第4学年〕友達と互いに**理解し、信頼し**、助け合うこと。

〔第5学年及び第6学年〕友達と互いに信頼し、**学び合って**友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

➡発言やワークシートの記述において、  
〔低学年では〕「**仲よくすること、助け合うこと**」についての「よさ」が言及されていればよし、  
〔中学年では〕それに加え、「**（相手）を理解する**」「**信頼する**」ことの大切さに気付いていればよし、  
〔高学年では〕さらに、「**学び合って**」切磋琢磨することの大切さに気付いていればよし、とする。

（例）「絵はがきと切手」の学習では、兄と母の意見に迷い、葛藤しながらも「きっとわかってくれる」という相互に理解することの大切さに気付いていました。中学年としての目標とする道徳的価値のよさについて理解しています。

＜教師の補助簿に、その児童の学習状況として記録しておく。以下の例示も同様＞

#### 人間理解

「内容項目」について、できなかつたり迷ったりする弱さ、反対にできた時のすがすがしさなどを理解する。

- 主人公のように考え、行動できるとよいことはわかっている。でも、できない自分や迷っている自分もいる。
- また、様々な登場人物の人間模様について共感したり、心情がわかつたりする。

（例）「はしのうえのおおかみ」の学習では、意地悪をしてはいけないと思っているが、ついついそうしてしまうおおかみの気持ちなど、人間の弱い部分にも目を向けることができました。さらに、「親切にすると気持ちよい」など道徳的価値を実現した時のすがすがしさについても理解していました。

#### 他者理解

「内容項目」について、しっかりとした自分の意見をもちつつも、他者の考えや思いとの異同について理解する。  
また、道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではないことも理解する。

（例）「正直、誠実」について学んだ「手品師」の学習では、ねらいとする道徳的価値の大切さを男の子の立場から考えたり、手品師自身の立場から考えたりするなど、多様な立場から捉えることができました。また、話し合いを通して友達の考えと自分の考えの同じところや違うところを整理して考えることができています。



## (2)自己を見つめる

道徳的価値の理解を**自分との関わり**で捉える  
(小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」)

- これまでの自分の体験、経験やそのときの感じ方、考え方と**照らし合わせながら**、道徳的価値についてさらに考えを深めること**(内省することができる)**。
- 自らを振り返って**成長を実感**したり、**これからの課題や目標を見つけたり**できるようになること。
- 自己や社会の未来に夢や希望をもてるようになること。

■「うばわれた自由」(自律、自由と責任)の学習におけるワークシートから

今日勉強して、僕はたまにジェラルルのような周りを考えない自由をしていたけれど、その自由は周りが困ってしまうことだとわかったので、これからはガリユーのような周りのことも考える自由に直していこうと思った。

(例)自由について考える「うばわれた自由」の学習では、自分の経験や体験に基づいて様々な「自由」について考えることができました。また、そこから今後のあるべき自由の姿について自分なりに考え、捉えることができました。

## (3)物事を多面的・多角的に考える

よりよく生きる基盤となる道徳性を養うには、子どもに**多様な感じ方や考え方**に触れさせることが大切

- 一つの事象(登場人物の言動等)に対して多様な意見や考えをもつことができる。
- 一人の登場人物だけではなく、いろいろな人物の視点からねらいとする道徳的価値について考えることができる。
- 諸事象(登場人物)の背景にある道徳的価値の多面性に着目させ、それらを手掛かりにして考察させ、様々な角度から総合的に考えることの大切さに気付くことができる。

■「花さき山」(感動、畏敬の念)で、「おらはいらねえから、そよサ買ってやれ。」と言ったあやの気持ちを問う発言から

(あやの気持ちの他に)「そよは、『ねえちゃんありがとう。』と感謝している気持ちがいっぱい。」「おっかあは『すまないねえ、あや。』とあやの思いやりや気遣いに感謝していると思う。」など、発問に対して他の人物から言及する発言があった。

(例)「花さき山」の学習では、あやだけでなく、そよやおっかあなど様々な登場人物の心情を考えることができました。道徳科の学習では、多面的な視点で物事を捉えています。

■「おらの花が咲いてるな。」と思った時のあやは、どんなことを考えているかを問う発言から

「親切にしたり、思いやりをもって接したりすると花が咲く。」「ほしいのを我慢して譲ると花が咲く。」「家族のことを思って行動すると花が咲く。」など他の価値から中心価値に迫ろうとする発言があった。

(例)「花さき山」の学習では、ねらいとする道徳的価値「感動、畏敬の念」について、「親切、思いやり」や家族のことを大切に思う「家族愛」など多角的な視点から捉え、しっかり考えることができました。

## (4)自己の生き方についての考えを深める

- 道徳的価値に関わる事象(登場人物等の言動)を自分自身の問題として受け止められるようにする。
- そこで、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。
- さらに、**これからの生き方の課題を考え**、それを**自己の生き方として実現**していこうとする**思いや願いを深めることができる**ようにする。
- 道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりし、そこから自己の生き方の課題を考える。

■あなたは、「最後の一葉」(よりよく生きる喜び)を学習してどんなことを学びましたかという展開後段の発問から

嵐に抵抗して必死に壁にしがみつき、「生きよう、生きよう」とするつたの葉の姿から、死ぬことしか考えていなかったジョンシーが生きることの大切さを学んでいる。私も、これからいろいろなことがあるだろうけど、今日の話思い出して頑張って生きていこうと思った。

生きてほしいと必死に願うベールマンさんの思いを学び、これからは自分自身の生き方に喜びを見出していこうと思った。

(例)「最後の一葉」では、登場人物の必死に生きようとする、また必死に生きてもらおうとする思いから「よりよく生きる喜び」に関わる道徳的価値を自分事として捉え、自らの思いや願いを深めていました。これからの生き方の課題についてよく考えていました。

## IV 指導と評価の一体化のために

### 参考：＜学習指導過程や指導方法に関する評価チェックリスト＞

|              |                                                         |                                                                 |
|--------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| (1)学習指導過程    | <input type="checkbox"/> 道徳的価値の理解                       | <input type="checkbox"/> 自己を振り返り、見つめる                           |
|              | <input type="checkbox"/> 自己の生き方を展望                      | <input type="checkbox"/> ねらいに即した指導の手立て                          |
| (2)発問        | ①導入 <input type="checkbox"/> ねらいへの発問                    | <input type="checkbox"/> 教材への発問 <input type="checkbox"/> 両方への発問 |
|              | ②前段 <input type="checkbox"/> 中心発問→ねらいの達成                | <input type="checkbox"/> 中心発問に向けた基本発問                           |
|              | ③後段 <input type="checkbox"/> 道徳的価値(内容項目)を主体的に自覚する(自分事に) |                                                                 |
|              | ④終末 <input type="checkbox"/> 余韻                         | <input type="checkbox"/> 子ども一人一人が道徳的価値をまとめる                     |
| (3)子どもの発言    | <input type="checkbox"/> 傾聴して受け止める                      | <input type="checkbox"/> 発言を指導に生かす                              |
|              | <input type="checkbox"/> それぞれの発言を関連させ、授業の深まりをつくる        |                                                                 |
| (4)教材や教具の活用  | <input type="checkbox"/> 教材提示の方法(語り、紙芝居、ICT機器、BGM等)     |                                                                 |
|              | <input type="checkbox"/> 場面絵等、学習を補う教具の活用                |                                                                 |
| (5)指導方法      | <input type="checkbox"/> 構造的な板書                         | <input type="checkbox"/> 子どもにとってわかりやすい板書                        |
|              | <input type="checkbox"/> 子どもの実態や発達に即した指導                |                                                                 |
| (6)配慮を要する子ども | <input type="checkbox"/> 発達障害や海外から帰国した子ども、外国人への配慮       |                                                                 |

V 指導と評価の指針

「指導と評価の一体化」は、道徳においても大切にしなければならないことは言うまでもありません。その実現には、一時間一時間の授業を充実させること、さらには授業後の子どもの「学び」の状況を把握することが不可欠となります。

|                  |                              |
|------------------|------------------------------|
| ＜さらなる指導の充実のため……＞ | 下記の事項について、具体的な教材に即してより明確にする。 |
| ・道徳的諸価値について理解する  | ・自己を見つめる                     |
| ・物事を多面的・多角的に考える  | ・自己の生き方についての考えを深める           |

|                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ＜よりの確な「学習状況や成長の様子」の把握のため……＞                                                                                             |
| 一人一人の子どもについて各視点から把握に努めようとする。記録に留めておく。                                                                                   |
| ・学習活動において児童、生徒が道徳的価値やそれにかかわる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを見取る。 |

指導と評価の一体化

そこで、下記に示す内容で教材毎に「指導と評価の指針」を作成することをおすすめします。きつと授業がよりシャープになり、児童、生徒一人一人の毎時の評価がしやすくなるに違いありません。

【指導と評価の指針の内容】

| 項                    | 目    | 期待する「児童の学び」の例                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)道徳的諸価値について理解する    | 価値理解 | ・道徳的価値観を形成するにあたり必要な「内容項目」について説明する。特に、低・中・高学年における「解説編」の内容について発達段階に即して明確に記述する。教材中の具体的な文言にも言及する。                                                                                                              |
|                      | 人間理解 | ・正しいとわかっているにも関わらず、時には難しく、そのようにできない時もある人間の弱さに着目、言及する。反対に、できた時などには心が晴れ晴れとしたリスクリしたりするのも人間のよさであることにも触れたい。                                                                                                      |
|                      | 他者理解 | ・友達など他者の意見との異同について認識、理解する。さらに、双方の意見や考えの「よさ」を捉えることができる。                                                                                                                                                     |
| (2)自己を見つめる           |      | ・道徳的価値について、自分との関わりを含めて理解し、内省する。また、これまでの自分の経験や体験、その時の感じ方や考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深める。自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができる。                                                                                 |
| (3)物事を多面的・多角的に考える    |      | ・「多様な意見や考え、様々な視点（より多くの、より広い、より深い見方・考え方）」と考えたい。種々の登場人物について考えることを通してねらいとする道徳的価値に迫る、さらには、関連価値などにも触れながら核心となる内容項目に迫る。                                                                                           |
| (4)自己の生き方についての考えを深める |      | ・道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。そこで、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。さらに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。<br>・道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりし、そこから自己の生き方の課題を考える。 |

(中学年教材を例として)

|           |                                                                              |            |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1. 主題名    | 友達のことを考えて                                                                    | (B 友情, 信頼) |
| 2. 教材名    | 「絵はがきと切手」 (『小学どうとく 生きる力 4』日本文教出版<br>出典：小学校『道徳の指導資料とその利用3』文部省)                |            |
| 3. 本時のねらい | 友達からの絵はがきが料金不足だったことを知らせるかどうか悩むひろ子の気持ちを考えることを通して、友達のことを理解し、信頼し、助け合おうとする態度を養う。 |            |

4. 指導と評価の指針

| 項                    | 目    | 期待する「児童の学び」の例                                                                                                                                                                                       |
|----------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)道徳的諸価値について理解する    | 価値理解 | 「正子さん、きつとわかってくれる」と信じながら手紙を書き始めたひろ子の思いや考えを問うことにより、中学年の「友情, 信頼」のキーワードであり、基盤でもある「相手のことを理解する」「相互に理解する」ことの重要性に気付く。                                                                                       |
|                      | 人間理解 | 正子さんに郵便料金が不足していることをちゃんと教えてあげることが大切であることはわかっている。しかし、なかなか言えないひろ子の弱さも理解できる。また、葛藤を乗り越え、手紙を書き始めたひろ子の「すがすがしい気持ち」についても自分ごととして理解する。                                                                         |
|                      | 他者理解 | 「意見の強い兄の言うとおりにしておいた方が無難」「親友だからこそ本当のことを言ってあげるほうがよい」「友達に同じ過ちをさせたくない」など料金不足を指摘することの根底にある考えは人それぞれであることを理解する。反対に、友達のことを思うがゆえに「言えない」という気持ちについても理解する。                                                      |
| (2)自己を見つめる           |      | 相手の気持ちや思いを考えることで仲よくできたなど、「友達のことを考える」とは、仲よく助け合うに加え「互いに理解する」ことの重要性について、これまでの経験や体験などからしみじみと感じたり、「もう少し相手のことを分かろうとするべきだったなあ」などと思いをはせたりする。                                                                |
| (3)物事を多面的・多角的に考える    |      | 「友達の間違いについて忠告し、きちんと正すこと」が友達のことを考える第一歩だと主張する兄の立場、逆の母の立場、の2つともそれぞれ「友情, 信頼」という内容項目に根差すものであると広い視野から考えられること。また、正しいことを教えるというA「善悪の判断」や「正直, 誠実」に関わる内容項目、「きつとわかってくれる」というB「相互理解, 寛容」に関わる内容項目から意見や考えをもつことができる。 |
| (4)自己の生き方についての考えを深める |      | 友達と互いに信頼し、助け合うことができた具体的な体験や経験を想起し、今後の自分のありようについてさらに発展して考えることができる。また、「互いに理解し合う」ことについて、様々な場面を想定し自分の取るべき理想の姿をイメージできる。<br>これからは友達の気持ちや考えをしっかりと聞いて理解しようとするのが大切であるということに気づき、それを自分の生き方の指針にしようとする。          |

※日本文教出版では、全学年のすべての教材について「指導と評価の指針」を作成し、令和2年度版の教師用指導書に掲載する予定です。

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。